

---

# 有現實世界

小声傘下

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

有現実世界

### 【著者名】

N4930M

### 【作者名】

小声傘下

### 【あらすじ】

有現実世界、つまり今人間が右往左往している現実。  
そこに非現実世界から放り出された眞島和大は、

今までとはあまりにも違つ世界に、どうにか事件を起こそうと試行錯誤する。

ある日、引っかけて転ばせた普通すぎる相沢美琴あいざわみこと出会い……。

普通じゃないようで普通な、学園コメディ。

## プロローグ

眩しい青空。響く笑い声。寂しげな教室。

まるで何ともない日常。響きよく言えば“青春”と言えるような風景。

廊下では麗しき乙女たちがダイエットやらメイクやらの不可解な話に花を咲かせ、外を見れば土ぼけりにまみれた青年たちが野太い声をあげ部活に打ち込んでいる。

嗚呼、何て美しい日々なのだろう。

ただし、いわさか平凡すぎる。今まで私が生きてきた世界とは比較なんてできないほど、穏やかで緩く、気を引き締めていなければアイスのよひごと口干くなってしまいそうだ。

そうして彼・眞島和大はまた深いため息をつくのであった。

## 非現実世界追放記

読者の諸君、私はこの物語の主人公である。

大抵主人公というのは、ドジで、トラブルメーカーで、勇ましく、時には泣き顔を見せ、

ひょっとしたら恋が芽生えそうな相手と赤い糸を引っ張りあっこするものである。

しかし、私はおよそ主人公的要素は何一つ持っていない、あろうことか、その技を身につけようともしてこなかつた。しかし私はこれでいいのだと、胸を張って言える。

私のいた非現実的世界、いわゆる一次元とでもいうべき世界では、慎重10cmに満たない小人から、10mはあろうかという巨人までの老若男女が集つていた。

勿論、人間だけではなく、エルフや動物さらには妖怪悪魔、謎の物体なども多数生息していた。

読者の諸君、驚くなれ。これらは全員役者である。

向こうの世界では「種族多数専属事務所」というとつてつけたような看板の事務所があり、

そこから有現実世界で生み出される“お話”のキャストを抜擢していくのだ。

無論、私もその事務所の一員であった。

最初は、主人公という憧れの地位を狙い我武者羅に突っ走っていたわけだが、

走つていれば疲れる訳で、いつの間にか私は落ちじぼれの座を勝ち取っていた。

そんな座は要らないと泣き喚いても、事務所では相手にもしてくれない。

かといって、なにもまるつきり仕事がこなかつたわけではない。私の主人公に成りえなかつた訳はまず顔にある。

良くも悪くもなく、メガネを掛けているわけでもなく、所謂普通だったのである。

逆にそこが評価されたところもあり、私は脇役とも言えない通りすがりを演じ続けた。

喫茶店のカウンター、の後ろにいる掃除係。

学校で主人公が颯爽と走り去る道の脇、よりも少し向こうのものはや線だけの人。

遊園地の風船配りのウサギさん、が持っている風船を膨らます人。

ぶつちやけて言えば、三つ目は画面外の決死の努力のみである。

こんな役ばかりであるから、喋る事もほとんどない。

喋ると言つても「え!?」「…?」「ぎやつ!」といった、叫び声が主であり、

一番ひどいのだと「」とこの記号のみで止付けらる」ともあつた。

そして、ここ数年では顔さえも出していない。

落ちるところまで落ち、後は上昇するしかない状態であるはずなだが。

しかしその好機がビートもおちていない。

この、「時世」、黒髪メガネが主人公になる事だつて不思議ではないのに。

だからこそ「地味」がとりえである私にもそのチャンスは巡ってきてもいいはずである。

「「はず」って思つてるだけじゃ 主役なんてとれっこないのよ。」  
私よりも先に出世していつた少女が残していつた言葉である。  
その時の私は、「そんなことは分かつている、何れ好機が巡つてくるのだ。」と、  
意味不明な言い訳で自分をマシュマロの様な柔らかい寝床で寝かせていたのだった。

その時の事を思い出し、自分に腹が立つてきた。

「クソヤロウ。このアンポンタン。お前なんざ山の噴火で死んでしまえ。」

悲しい事に、その位じや非現実世界の人間は死ないのである。

徐々に私の心の溝は削られていいくのであつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4930m/>

---

有現実世界

2010年10月10日20時46分発行